

教員名	講座（テーマ）名	内容
有田 清子	手と目と耳で自分の体を探検してみよう	生きている証拠を見つけることが、人の生命を守り育てる看護の第一歩。看護師が行っている体温や呼吸・脈拍・血圧の観察について知り、聴診器など器具も使って実際に体験してみましょう。
水谷 郷美	看護における感覚の活用	看護師は視覚・聴覚・触覚・嗅覚を活用して、患者さんの健康状態を的確に把握しています。一緒に学びながら、看護に必要な感覚を磨きましょう。
山隈 岳大	認知症になっても変わらないこと	認知症になると、しばしば「何もできなくなる」と周囲の人より見なされ、お金の管理や自由に歩くこと、料理を作るなどに至るまで、様々なことを自由にさせてもらえなくなることが多くなります。では、本当に認知症になると「何もできなくなる」のでしょうか？この講座では、認知症になると苦手になることや、認知症になっても変わらない、または、変わりづらいことについてご紹介し、自分のまわりの認知症の方へのかかわり方などのお話をします。
川端 龍人	集中治療室から退院後の心と体への影響	近年、集中治療室から無事に退院された方々に、退院後も様々な影響が出てきていることが明らかとなってきました。集中治療後症候群：PICSについて学んでいきましょう。
藤巻 翔	一次救命処置について知ろう	一次救命処置とは、事故や急病によって呼吸や心臓が止まった人に対し、救急車が到着するまでに行う処置のことです。「何をすればいいのかわからない」から「これなら私にもできる」となるように、自動体外式除細動器（AED）の取り扱いや心臓マッサージの方法、それ以外にも現場でできる様々なことをお伝えしたいと思います。
小林 小百合	認知症のある高齢者のケア	認知症によって生活上の困難を抱えている高齢者に対して、心地よく暮らしていただくためのケアの基本的な考え方についてお伝えします。
小林 小百合	高齢者のフットケア	高齢になると様々な足のトラブルが起きやすくなります。トラブルが発生するメカニズムの理解とあわせて、爪や足の日常的なケア方法についてお伝えします。
佐藤 忍	高齢者の心身の変化	加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を知り、高齢者の生活面への影響や生活しやすい環境について考える。
武井 ますみ	日本の高齢者は元気で長生き？！（高齢者のヘルスプロモーション）	世界のご長寿トップランナー日本の高齢者のライフスタイルをいろいろな視点で紹介します。年を重ねても元気で生き生きとした高齢者の健康の秘密とは？病気になっても、病とともに幸せに生きる暮らしとは？身近に高齢者がいる方もそうでない方も、いつかは自分も年を重ねていきます。老化を悲観するよりも、人生の円熟ととらえることで見えてくる社会があるかもしれません。
山隈 加奈子	高齢者とのコミュニケーション	耳が遠くなる、目が見えにくくなるなど、様々な加齢変化に伴い、高齢者になるとコミュニケーションを取りにくくなる場合があります。しかし、高齢者のコミュニケーションの特徴や、どのように話しかけたらよいか、言葉以外のコミュニケーション方法などを知っておくと、高齢者の方のお話しがお互いにより深く、楽しいものとなります。
森 明子	生涯にわたり、大切にしよう、リプロダクティブヘルス	リプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）は、ひとが生涯にわたり、自他を尊重し大切にするための基本となる健康の概念です。身近なこととして理解し考えることで、豊かな人生を送るための心と術を学んで欲しいと願っています。また、これから進路やキャリアプランを検討する皆さんにはプレコンセプションケアについても知っていただきたいと思います。
蛭田 明子	出生前検査・出生前診断、てなに？	医療の発達は、生まれる前の胎児の病気を発見することも可能にしました。今10代の皆さんは、出生前検査が今よりもっと特別なことではない時代に子どもを産み育てる時期を迎えることでしょうか。この検査には恩恵もありますが、そればかりではない側面も併せ持ちます。検査が私たちに何をもちたらしめるのかを知り、自分にとっての必要性を考えて選択できるような学びの機会になればと思います。
高畑 香織	触れてときめく☆オキシトシン	近年、オキシトシンは絆ホルモンや幸せホルモンという呼び名で注目されています。しかし古くは、出産・授乳・育児と深いかわりのあるホルモンとして知られ、わたしたち助産師の活動とも深く関わっています。講義や演習を通して、普段はあまり意識することがないホルモンの動きについて考えてみましょう。
西俣 安希子	みんなキセキから生まれたひとり	子どもが生まれるということは奇跡の連続。1回の生理で1個排卵、1,000個の卵子が消失。1回の射精で放出される精子の数は約3億個。1,000分の1の卵子と3億分の1の精子が出会って妊娠する可能性は、20代で25～30%。30代で10～20%。私たちが生まれたこと自体が、奇跡。妊娠したら、体はどんな風になるのか、どんな生活になるのか、妊婦体験を通して妊婦さん・パートナーの思いを想像し、私たちが周囲の妊婦さんにできることを考えてみたいと思います。あわせて、自分自身を大切にすること、ご家族を大切にすることを考える機会になって欲しいと思います。
櫻井 佐知子	世界へ飛び出せ看護職！	日本は今、少子化と言われていますが、世界中では毎日たくさんの子どもの子どもが生まれています。しかしながら、一人の子どもがお母さんのお腹の中で育ち、生まれ、大きくなるには、まだまだ多くの支援が必要な国があります。SDGsの目標にも掲げられている母子保健の現状と海外で行う看護職（助産師）の支援について紹介します。異なる文化や環境で生まれ育つ人々の生活に思いをはせてみましょう。
西村 あをい	地域で過ごす医療的ケア児の理解	医療的ケア児とは、胃ろうや痰の吸引、人工呼吸器といった医療的ケアを必要とする子どものことです。国内では約2万人いるのではないかとされ、ここ10年で2倍に増えています。地域で生活する医療的ケア児と家族を取り巻く社会環境には様々な問題がありますが、その現状についてお話しします。
中富 利香	あかちゃんの能力と魅力	生まれてから1か月の「新生児期」にあるあかちゃんは、生まれてからの新しい環境に適応できるよう様々な能力を持って誕生します。この新生児期は人間の一生の中で成長発達のスピードが最も速く、様々な影響を受けながら、心と体の基盤が出来上がってくるため大切な時期でもあります。また、あかちゃんは周囲からの影響を受け取るだけでなく、周囲から受け取った影響に反応し、その反応を周囲に返しています。この時期のあかちゃんが、具体的にどのような能力があり、どのように環境と相互作用しながら成長発達を遂げていくのかをお伝えします。生まれて2日目ぐらいのあかちゃんでも、ある特定の色は識別できますし、特定の人物の匂いもわかりますよ。
黒岩 志紀	2歳児の不思議	誰もが経験してきたはずなのに、忘れてしまっている。そんな2歳児の身体や感覚を科学的に紐解き、幼児の世界を疑似体験してみましょう。
吉野 由美子	こころの健康をセルフケア（認知編）	こころの健康にはストレスと上手に付き合うことが大切だと言われています。こころの状態は目に見えにくいものです。知らず知らずのうちに心の疲れがたまってしまうこともあります。自分自身の心の状態を知り、こころを健康に保つ物事の捉え方や生活習慣等、心の健康のセルフケアについて一緒に考えてみましょう。
吉野 由美子	こころの健康をセルフケア（リラクゼーション編）	こころの健康にはストレスと上手に付き合うことが大切だと言われています。こころの状態は目に見えにくいものです。知らず知らずのうちに心の疲れがたまってしまうこともあります。こころの疲れをとるリラクゼーション法について体験を通して考えてみましょう。可能であれば、酵素分析装置等によるストレスの測定を体験します（参加人数、感染症の発生状況等により異なります）。
小森 直美	おうちに看護師がやってくる	「医療機器がないと生きていけない子どもたちがお家で暮らせるように支えたい」「患者さんが病気になった後も住み慣れた家で安心して療養できるように支えたい」そんな、患者さんの夢を叶える時代になりました。訪問看護師がもっているスキルを紹介・体験しながら、地域で活躍する訪問看護師についてお伝えします。
増田 政江	医療的ケア児とその家族への看護	日本は新生児医療の進歩によって多くの子どもを救命できるようになりました。その反面、様々な障害が残った子どもたちが増加しています。その中でも、人工呼吸器などの医療機器や痰の吸引などの医行為を日常的に必要とする子ども「医療的ケア児」とその家族に対し、社会の中でどの様に支えていくかが重要な課題となっています。その現状と課題及び「医療的ケア児」とその家族への看護支援の必要性についてお伝えしたいと思います。
牧 千亜紀	行動変容をうながす看護～ナッジ理論を知ろう！～	ナッジとは「行動変容を促す仕掛け」のことで、行動経済学や私たちがもつ意思決定の癖（バイアス）が深く関係しています。これらが、私たちの日常生活にどのように影響しているのか、楽しく学べる授業を行います。
牧 千亜紀	脳の不思議を知ろう！	脳の健康は、心や体の健康と大きく繋がっています。脳の仕組みや、脳を活性化し健康な脳を維持するための秘訣について、実践を交えた授業を行います。
笹山 桐子	途上国で人々の健康を守る看護のしごと	途上国では、医療や保健の仕組みが十分に整っていない地域もあり、限られた資源の中で人々の健康を守る工夫が求められます。そこで、海外での健康支援や国際協力の経験をもとに、看護職が地域や暮らしに寄り添いながら、どのように健康を支えているのかを紹介します。日本との違いにもふれながら、健康を守るとは何かを一緒に考えます。
田辺 直行	システム・ダイナミクスによるモデリング	社会現象や自然現象を分析して、モデリングすることで、一見複雑に見える現象もコンピュータシミュレーションを使えば理解できるようになります。例として、感染症の感染者数の変化を簡単なモデルで表してみます。シミュレーションしてみると、俯瞰して現象を見ることができるようになります。（座学講座、あるいは、コンピュータを使う講座のどちらでも可能です。）
田辺 直行	テキストマイニングによるみんなの意見	会話を語ったことをそのまま文字に起こしたものや、アンケートでの自由記述、SNS上に書かれたものの中から、みんなの意見を見つけ出す方法として、テキストマイニングという方法が使われるようになってきています。どのような考え方なのか、また、そのメリットやデメリットは何か？を考えていきます。（座学講座、あるいは、コンピュータを使う講座のどちらでも可能です。）
田辺 直行	情報のユニバーサルデザイン	障がいを持った人に使いやすいデザインは、誰にでも使いやすいデザインだといえるでしょう。こうした誰にでも使いやすいデザインのことをユニバーサルデザインといいます。身近なもののユニバーサルデザインを考えていきます。（座学講座、あるいは、ワークショップ講座のどちらでも可能です。）